

# 差別問題について

～LGBTQIAの視点から学校の校則を考える～



## テーマについて

私たちがLGBTQIAをテーマにしたのは、世の中に様々な偏見がある中で、LGBTQIAの人たちが差別を受け、自分をさらけ出す事ができずにいるという現状を知り、全ての人自分の気持ち表現出来るように、また自分の意思と一致した生活を送ることが出来るように、少しでも偏見を無くしたいと考えたからです。このプロジェクトテーマはSDGsの「5. ジェンダー平等を実現しよう」に関連すると考えます。

## プロジェクトの計画と目標

### 〈計画〉

6月:プロジェクトテーマ作成

7月:評価基準決定

9月:アンケート作成、プロジェクトミーティング

10月:第1回アンケート配信、アンケート結果集計  
ポスター作成

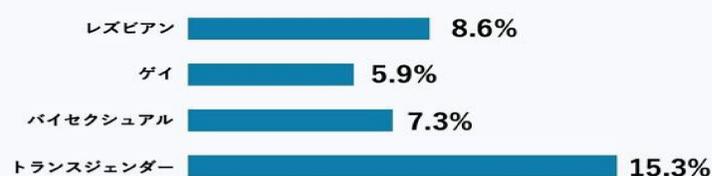
11月:第2回アンケート作成、配信、ポスター掲載

### 〈評価基準〉

評価基準1:「LGBTQIAについて西高の現状を知る」

評価基準2:「アンケートの結果から理解がどれだけ  
深まったか確かめる」

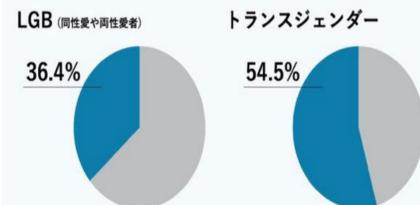
### 職場におけるカミングアウト割合



### 職場で「同性愛やトランスジェンダーをネタにした冗談、からかい」を見聞きしたことがある



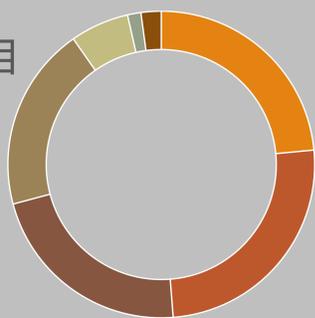
### 職場で困りごとを抱えるLGBTの割合



## プロジェクトの実施内容

私たちはプロジェクト達成のためにLGBTQIAについて調べ、classiで二年生を対象に、LGBTQIAへの理解度アンケートを配信しました。その結果を踏まえてポスターを作成し、ポスターを見た結果、LGBTQIAへの理解がどれだけ深まったかを調査する為、再び同じようなアンケートを配信しました。

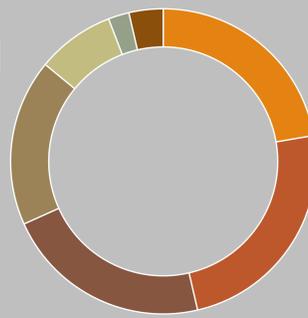
### 1回目



- Lは知っている
- Gは知っている
- Bは知っている
- Tは知っている
- Qは知っている
- Iは知っている
- Aは知っている

L:64人 G:69人 B:60人 T:53人 Q:17人 I:4人 A:6人

### 2回目



- Lは知っている
- Gは知っている
- Bは知っている
- Tは知っている
- Qは知っている
- Iは知っている
- Aは知っている

L:39人 G:53人 B:48人 T:39人 Q:18人 I:5人 A:8人

## 【プロジェクトの成果・まとめ】

学年内のアンケートを通し、校則について考え見直すべき校則があることに気づくことができました。ポスターを掲示するなどの取り組みで、学年内の理解度や、自分たちの知識もより高めることができました。アンケートの1回目と2回目で回答してくれた人数が違い結果が正確では無いですが、1回目の調査よりポスターを配布したあとの2回目の調査のほうが全項目理解度がたかまっています。また、1回目では理解度が低かったQ・I・Aの理解度が高まっています。

## 【今後の課題・展望】

多様性を認めるのであれば、多様性を認めないという考えも認めなければならないという意見があることです。また、自分の性を公開する、カミングアウトするということが正しいのかなどの考えもありました。今回学年のみでの調査だったので、今後どうするか、西高全体で調査し理解度を高めていくことが課題です。Classiでアンケートを実施すると集計しやすい反面、回答してくれる人数が少なかったり、1回目と2回目で回答してくれた人数が違っていたので、アンケートの正確さを高めるには、用紙で調査をするべきでした。

### 【参考文献】

森永康子(2002)『女らしさ、男らしさ』北大路書房

<https://lgbt-life.com/topics/lgbtnews3/https://news.yahoo.co.jp/feature/1832>

(LGBTQIAについて) jobrainbow.jp (性自認とは) <https://jobrainbow.jp/magazine/genderidentity>.

[https://gooddo.jp/magazine/gender\\_equality/lgbt\\_gender](https://gooddo.jp/magazine/gender_equality/lgbt_gender)/<https://madokasuzuki.com/hair-humanright/>